

(様式第4号)

第7回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和5年10月19日 13時30分から
3 会場	川西公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、富田委員、西入委員、羽田委員、樋口委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、宮下委員、安江委員、柳澤委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】滝沢城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、大森地域振興政策幹、竹花課長補佐兼地域内分権推進担当係長、滝澤地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、芳池地域内分権推進担当主事 【都市計画課】矢島都市計画課長、山浦課長補佐兼調査計画担当係長、竹内調査計画担当主査、東城調査計画担当主任 【交通政策課】横沢交通政策課長、市川課長補佐兼交通政策担当係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年10月25日
協議事項等	
1 開会	
2 会長あいさつ	
3 協議事項	(1) 上田市都市計画マスタープラン及び上田市立地適正化計画の改定について 都市計画課から資料を基に説明 以下、質疑応答 (委員)塩田地域のマスタープランの地図の中にある、上田リサーチパークの工業団地にかかる道路整備が重要である。朝夕の渋滞に対する対策は、すぐにでも取り組んでほしい。 上田都市環状道路プランについて、ご説明いただきたい。 (都市計画課)東塩田林間工業団地に向けて鈴子バイパスの計画がある。主要地方道上田丸子線以東は、10年間程度で開通させていきたいと、県の方で計画を進めている。その後、引き続き西側の柳沢バイパスと鈴子バイパスをつなげるような計画である。下小島から柳沢までの間は、都市計画のルートとしては決定しているが、事業としてどんな流れになるか、具体的に決まっていない。朝夕の神畑から大学前までの渋滞がひどくなっている。代替交通として別所線の利用促進も踏まえ、解消を考えなければいけない。 (委員)“コンパクトなまちづくり”というと、全国的には都市部に集約させているイメージがあるが、上田市の場合は農山村があり、全国的によく言われているイメージとは違うと感じている。川西地域であれば、どういうイメージでコンパクトなまちを想像したらよいか。コンパクトなまち同士をつなぐとなれば、バスが非常に大事だと思うが、お考えはどうか。 (都市計画課)今回の計画はコンパクト&ネットワークであり、各地域の集落の維持も大切である。ネットワークの部分で、特に川西地域はバスが重要になってくる。乗らないと維持できないという面もあり、利用促進を図りながら路線を維持していきたい。

(2)上田市地域公共交通計画の策定について

交通政策課から資料を基に説明

－委員からの質問等なし－

(3)分科会協議「第1分科会」「第2分科会」「第3分科会」

上田左岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会：自治・まちづくり】

・「上田市のまちづくりに関する補助金等アンケート」の集計結果を基に、各自治会からの意見集約を試みた検討資料を作成し、これをたたき台として地域協議会としての提言内容の検討

・長野市及び松本市の自治会等に対する補助制度の調査資料も加えて検討

・意見書の提言内容の文案も提示して検討

・意見書は総括的な内容となるため、各自治会の個別具体的な生の声を伝えていくことも大切であるとの意見もあり、意見書にはアンケート集計結果を付すこととする。

・意見書の提出後、アンケートに回答いただいた自治会にも、意見書とアンケート集計結果を報告する。

【第2分科会：子育て・福祉・教育】

●フードドライブの参加報告

以下、報告内容

・城下地区のフードドライブに参加した。お米を中心に約200kgの支援があった。

・保存が効く穀物以外は冷蔵庫がないためレトルトが中心であった。

・頂いた食品は、一旦社会福祉協議会で預かるが、賞味期限ごとに仕分けしバーコードで管理している。この仕訳作業が大変そうであった。

●分科会長から提出された意見書(案)を基に協議

以下、委員からの意見

・行政への意見として、みんなのしおだ食堂のような取組を支援していく、また、参加、協力しやすい環境づくりをお願いしたい。

・公民館を利用するメリットとして、使用料、光熱水費が無料という点があり、今後も継続していただくことを要請したい。

・公民館が実施主体とはならないと思うが、相談や情報提供などではできないのではないか。

・市内のこども食堂は、それぞれ個性があり、多面的な事業となっているため市に相談できる窓口がない。県の信州こどもカフェの事務局のような、市の中にも全体を統括するセクションの設置を要求できないか。

・長野大学は市立となったので、学生が地域のボランティア活動等に参加することで単位が取れるなど、積極的に地域貢献できるシステムが作れないか。

・社会福祉協議会など、地域支援を行う団体の負担が大きくなっており、支援する団体を支援する方策も検討できないか。

【第3分科会：産業・地域振興】

調査・研究テーマについて協議

以下主な意見

- ・上田電鉄別所線無人駅ナカサービスは、市とも共有している。
- ・ナカセンナリの生産団体が収穫期に入っており、懇談は難しい。
- ・別所温泉では、あまりナカセンナリの加工品が普及していないと聞いている。
- ・安定した供給が必要である。
- ・行政と市民の協働によるまちづくりに関する事項が大前提であることをもう一度考えて取りまとめをしてほしい。
- ・上田左岸地域には、既存資源として、文化遺産、観光などもあるが、件名にある地産地消と既存資源が結びつかない。農業振興以外も提言するなら地産地消は使わなくてもよいのではないか。
- ・この分科会は、上田電鉄別所線、国道 143 号沿線の活性化をどうするかを調査研究していくことで始まったはずなので、農業振興、空き家の利活用も含めた地域活性化策を盛り込んでいくべきと考える。
- ・本日説明のあった都市計画マスタープラン案に青木峠バイパス開通後の川西地域の将来像について触れているように、上田左岸地域も交通量増加を見据え、機を逃さず人を呼び込む取り組みが必要である。そういった意味でも、ナカセンナリのブランド化、上田電鉄別所線無人駅ナカサービスも地域活性化策として進めていくべきと考える。
- ・ドライフルーツの加工推進も提言しているので、6 次産業についてももう少し触れたほうがよいと考える。

4 その他

次回の開催予定

日時 11月16日(木) 午前10時から

場所 城南公民館 大ホール

5 閉会